

沈黙は金 (1946)

LE SILENCE EST D'OR

メディア 映画

ジャンル コメディ ロマンس ドラマ

製作国 フランス

色彩 B&W

時間 99分

初公開日 1950/01/17

公開情報 S E F = 東宝

【解説】

シュヴァリエがフランス映画界に戻って主演した、戦後第一回復帰作。彼の最も得意とする、若者に自らの恋をゆずる粋な老紳士役を余裕綽々と演じて文句のつけようがなく素晴らしい。パリの幸福撮影所長兼監督のエミールは、遊園地の一角の常設館で、自作の活動写真の反応を窺っていた。男友達と来て途中で出て行く婦人の意見は、“私、悲劇は苦手なの”。そして、自宅に戻ると、友人の芸人セレスターの娘マドレーヌが立ち尽くしていた。かつての片思いの相手の忘れ形見である彼女は、彼を頼ってパリに出てきたのだった。助監督ジャックは恋に不器用な男。悩む彼にエミールはナンパの秘訣を教える。早速、乗合馬車の隣に座ったマドレーヌをデートに誘う。彼女は自分に親切心以上の感情で接してくれる年上の男性がいるーと告白したが、それが何を隠そうエミール。撮影所の女優となった彼女と図らずも“共演”という形で再会し、二人の間柄に気づいたジャックは身を引こうとしたが、その頃にはマドレーヌの気持ちはすっかりジャックにあり、一旦は年甲斐もない焼きもちに、彼をクビにしたエミールだったが、すぐに自分の愚かさに気づいて、二人の仲を取り持ってやるのだった。そのきっかけになるのが、撮影を見学に来た某国王の作品の筋への難クセで、エミールはヤケになって言うとおりに、悲劇をハッピー・エンドに変更してみて、自分の過ちに思い至る。この辺りの展開の妙はさすがクレールという感じで、当然、最初の常設館の同じ婦人の反応を伺って、映画はF I Nとなるのである。古きよき映画創成期のドタバタ模様も楽しい秀作だ。

【クレジット】

監督	ルネ・クレール	Rene Clair
原作	ルネ・クレール	Rene Clair
脚本	ルネ・クレール	Rene Clair
撮影	アルマン・ティラー	Armand Thirard
音楽	ジョルジュ・ヴァン・パリ	Georges Van Parys
出演	モーリス・シュヴァリエ	Maurice Chevalier
	フランソワ・ペリエ	Francois Perier
	ダニー・ロバン	Dany Robin
	マルセル・デリアン	
	レイモン・コルディ	Raymond Cordy
	マックス・ダルバン	Max Dalban